

(様式 1-3)

福島県(双葉町)帰還・移住等環境整備事業計画 帰還・移住等環境整備事業等  
個票

令和 7 年 6 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	269	事業名	被災地域農業復興総合支援事業(養液栽培施設整備) 双葉町	事業番号	(5)-43-60
交付団体	福島県		事業実施主体(直接/間接)	双葉町(間接)	
総交付対象事業費	38,839(千円)		全体事業費	1,578,835(千円)	
帰還・移住等環境整備に関する目標					
＜現状＞					
(1) 農業再生への取組					
<p>東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故により、当町は甚大な被害を受け、町民は県内外で不自由な避難生活を強いられている状況にある。農地や各種農業用施設も被災し、放射性物質により汚染され、町内の営農活動は中断したまま 14 年を迎えた。こうした中、当町は「復興まちづくり計画」及び「特定復興再生拠点区域復興再生計画」に基づき「双葉町地域営農再開ビジョン」を策定し、避難指示解除後の町内での営農再開に向け、農地の除染、保全管理、試験栽培の実施、農業法人等の誘致・連携等の取組を進めてきた。</p> <p>「双葉町地域営農再開ビジョン」においては、地域の特徴に加え除染の状況や水利施設の状況等も踏まえた、地域別の農業再生の方向性(ゾーニング)を整理しており、本事業の対象地区では、新たな農業モデルの構築や園芸団地整備により、町民が帰還し営農再開しやすい環境整備を進めることとしている。</p>					
(2) 震災前の農業の現状					
<p>当町の農業は震災前から農家数減少と高齢化が顕著であった。2010 年時点で耕地面積の 87%にあたる 611ha が水田であり、収穫量ベースでは 85%が水稲・飼料用作物となっており、水稲兼業農家が主流であった。他方園芸品目では、浜風ホウレンソウ、花木、ハクサイ、キャベツ、トマト、キュウリ、パレisho、ダイコン等の海洋性気候を生かした多様な品目の栽培実績があった。</p>					
(3) 双葉郡におけるトマト産地化の取組					
<p>双葉地域の温暖かつ日照量の優位性を活かした施設トマトの産地化を推進している。JA 福島さくらでは、全体販売高 10 億円のトマト産地化を進めており、そのうち、サンシャイントマトのブランド化及び産地化に向け、いわき市及び檜葉町の生産者を中心としたサンシャイントマト出荷協議会を設立し 6 億円規模の産地を目指している。令和 4 年産のサンシャイントマトは、出荷協議会全体で出荷量 1,505t/販売額 4 億 6,000 万円の実績となっている。</p>					
＜今後の方向性＞					
<p>当町の置かれた実情も踏まえ、農業再生拠点として出荷量約 500t/販売額約 1 億 5,000 万円規模のトマト養液栽培施設を整備する。施設は JA 福島さくらに貸与し、同 JA が施設の管理・運営を行い、その子会社の(株)アグリサポートふたばが同施設でのトマト栽培を担う予定であり、サンシャイントマト産地化の実現を目指す。</p> <p>また、周年栽培による安定雇用を創出することで、地元住民の帰還促進や定年帰農をはじめ、Uターンなどの就農機会の増大と営農再開を促進する。</p>					
事業概要					
＜整備内容＞					
■養液栽培施設					

- ・施設概要：養液栽培施設（双葉町大字中田地内）  
敷地面積 約 21,900 m<sup>2</sup>、うち 栽培施設 約 12,960 m<sup>2</sup>  
残渣処理場（双葉町大字長塚地内）  
敷地面積 約 600 m<sup>2</sup>、うち 残渣積上場 約 108 m<sup>2</sup>、残渣置場 約 128 m<sup>2</sup>
- ・品目：トマト
- ・年間収量：500 t（周年栽培）

<双葉町復興まちづくり計画（第三次）、双葉町地域営農再開ビジョンにおける位置付け>

- ・「双葉町復興まちづくり計画（第三次）」

#### 第4章 避難指示解除後5年以内に行う分野別基本施策

##### Ⅱ. 産業・エネルギー

##### 施策2 農業の再生

###### (1) 共通

###### ◆営農再開等支援

営農再開に向けて必要な支援に引き続き取り組みます。

###### (4) 中田地区

###### ◆先端農業への挑戦

土地利用型農業に捉われず、先端技術を用いた施設での水耕栽培や植物工場による土を使わない農業、最先端種苗産業等、新たな農業の発想・転換を検討します。

##### 施策4 人材の確保

###### ◆人材確保・就業支援へのサポート

町民や移住・定住希望者と企業・事業者のマッチングをサポートし、企業・事業者の人材不足や農業の担い手不足を解消するとともに、町民が仕事を得られるようサポートします。

- ・「双葉町地域営農再開ビジョン」

#### 第5章 地区毎の農業再生の方向性

##### 3 中田地区

###### (1) 復興まちづくり計画における位置づけ

中田地区は特定復興再生拠点の「再生可能エネルギー活用・農業再生ゾーン」と位置付けています。再生可能エネルギー・農業再生モデルゾーン（両竹地区）の取組みの段階的な展開を図り、再生可能エネルギーを活かした新しい農業・新たな産業創出と農業再生を通じた原風景の回復を図ることとしています。

###### (3) 地区の課題と農業再生の考え方

###### ③ 中田地区の方向性

###### ～先端農業への挑戦～

###### (前略)

一方で、中田地区の農地の半分程度は泥炭な軟弱地盤となっており、水稻や水田を活用した園芸栽培を進める場合、土壌改良（客土）や排水対策（暗渠排水）も含めた農地整備が必要となることが想定されます。

このため、農地整備する場合の費用対効果や将来的な担い手の確保状況、他地区の営農に関する動向を考慮しつつ、土地利用型農業に捉われずに、先端技術を用いた施設での水耕栽培や植物工場による土を使わない農業、あるいは「新芽の出る町・双葉町」などのコンセプトによる最先端種苗産業化などの新たな農業の発想・転換を検討していきます。

地権者の意向としては「農地を貸したい」という意向が多数であるため、新たな農業の担い手として即戦力となる農業法人や企業等の誘致を推進していきます。

<b>当面の事業概要</b>	
<令和7年度> 実施設計費 38,839 千円 <令和8年度(予定)> 建築工事費、機械器具整備費、工事監理費 1,539,996 千円	
<b>地域の帰還・移住等環境整備との関係</b>	
当該施設については周年栽培により20名程度の安定した雇用を募る施設であり地元住民の帰還促進や定年帰農をはじめ、Uターンなどの就農機会の増大に資することが期待される。	
<b>関連する事業の概要</b>	
・効果促進事業	第46回 測量設計費等 34,353 千円 第50回 敷地造成工事費 291,911 千円 令和8年度(予定) 敷地舗装及びフェンス設置工事 57,816 千円

※効果促進事業等である場合には以下の欄を記載。

<b>関連する基幹事業</b>	
事業番号	
事業名	
交付団体	
<b>基幹事業との関連性</b>	

# 福島県 双葉郡 双葉町管内図

被災地域農業復興総合支援事業(養液栽培施設整備)

事業予定地 (養液栽培施設)

事業予定地 (残渣処理場)

